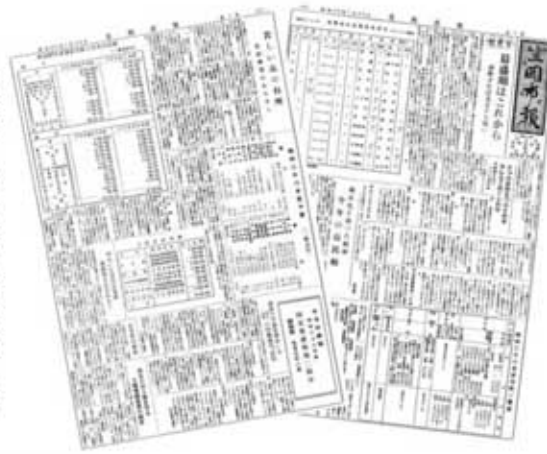


広報かさおか発刊

600号!!

昭和28年7月に第1号が発行され、52年と10カ月で600号を迎えました。今月は、600号までの軌跡を振り返ります。



▶記念すべき笠岡市報第1号

昭和28年7月20日発行

市制施行の翌年7月に「笠岡市報」として市の広報紙が誕生しました。

赤痢の予防方法や市の予算、市役所の案内図が掲載されています。



◀第17回国民体育大会特集号 昭和37年9月20日発行

この年の10月21日から26日にかけて開催された岡山国体について特集しています。

国体開催まで1カ月となり、主会場となる県総合グラウンドの写真や、選手・関係者を迎える心構えなどが紹介されています。

600号への歩み

1号

昭和28年7月20日発行

(B4判 4ページ)

「せきり最盛期はこれから油断すればあなたも危うい」、「苦しい市の台所」財政事情のあらましなど、当時の時代背景がうかがえる記事が掲載されています。

100号

昭和37年5月20日発行

(B5判 4ページ)

この年開催の岡山国体への募金呼びかけや、レスリング競技の会場となった笠岡中学校の体育館が完成した記事。さらに、富岡干拓地や西の浜埋立地の分譲募集などが掲載されています。

200号

昭和46年12月10日発行

(B5判 4ページ)

12月号のため、「さよなら1971年」と題し、笠岡湾干拓事業、山陽新幹線、大規模農道、高梁川からの導水事業などが行われた一年を振り返った記事が掲載されています。



「広報かさおか」
発刊600号にあたって

暖かい日の光とともに、花の便りの聞かれる穏やかな季節となりました。皆様には健やかにこの春をお迎えのことと存じます。

突然ですが、今月号の表紙をよく見直してください。この「広報かさおか」も創刊号から数えてちょうど600号となりました。

記念すべき第1号は、昭和28年7月に「笠岡市報」として誕生いたしました。懐かしくページをめくってみますと、同年10月1日には9町村との合併が予定されており、人口6万5千人、面積100km余りの都市として岡山、倉敷に次ぐ県下第3位の地位を占めることになったとあります。

また、第100号では、第17回岡山国体を間近に控えて気運を盛り上げる広報がされ

ています。

本年、笠岡市では笠岡総合体育館を主会場として、成年女子バスケットボール大会が開かれますが、当時は同じく新築された笠岡西中学校の体育館を主会場としてレスリング競技で盛り上がったと記憶しています。

笠岡市とともに歩む市広報紙でこの半世紀を振り返ってみますと、まさに時代は繰り返すとも言いましょうか、「市町村合併」、「岡山国体の開催」などと、現在の笠岡市を取り巻く状況によく似ていると感じます。

私自身この600号発刊を機に、次代のさらなる笠岡市の発展に向け、市民の皆様と一緒に一層弾みをつけた一歩を踏み出していきたいとの思いを新たにしております。

朝夕は、まだ肌寒いこともございます。体調を崩しやすい時節かとは思いますが、皆様方には健康管理に十分ご注意ください。

笠岡市長 高木直夫